

国語科学習指導案

令和元年11月6日(水) 第2校時(9:45~10:30)

1 単元名 せつめいのしかたに気をつけて読もう

～教材名 「しかけカードの作り方」 光村図書 小学2年

2 考察

(1) 本単元にかかわる児童の実態(男子11名、女子9名、計20名)

本単元までに児童は、国語の学習において、1学年で「くちばし」「じどう車くらべ」、2学年で「たんぼぼのちえ」「どうぶつ園のじゅうい」の説明的文章の読解を学習してきた。特に、2学年で学習した「たんぼぼのちえ」「どうぶつ園のじゅうい」では、「時間的順序」に着目して文章を読む学習をしてきた。「春になると」「二、三日たつと」「やがて」などの、時間的順序を表す言葉に着目して順序を捉えたり、文章と絵を照応させて内容を確認したりしながら文章を読む学習をした。それらを理解し、正しい順序で内容を捉えられている児童もいた。一方で、順序を表す言葉への意識が十分でなく正しい順序を捉えることができなかつたり、文章と絵を照応させることができなかつたりする児童もいた。

また、算数の学習で問題を解く手順を説明する際に、「まず」「つぎに」などの順序を表す言葉を使って説明できる児童は少ない。積極的に挙手をして発表しようという意欲はあるが、わかりやすく順序立てて友達に伝えようとする意識は薄く、伝わったかということより、前で発表できたということに満足している様子が見られる。

本教材「しかけカードの作り方」では、「事柄の順序」に着目して手順ごとに文章を読んでいく。「事柄の順序」を読むという経験は、児童にとって初めての経験である。しかし、順序を表す接続詞に着目したり、写真と照応させたりして読むという点で、これまでに学習した「たんぼぼのちえ」や「どうぶつ園のじゅうい」と共通している部分もある。再度、順序を表す接続詞や、文章と写真との照応に着目して文章を読む経験をし、その有効性を確認していきたい。また、算数における問題を解く手順の説明の実態から、相手に伝えることを意識した説明の仕方を学ぶ必要もあると考える。これらの実態から、本学級の児童には、順序を表す言葉や写真との照応に気をつけて読むことや、相手に伝わる説明の仕方について考えることが必要だと考えられる。

(2) 教材観

①学習指導要領上の位置づけ

「C 読むこと」の指導事項(1)

- ◎ア 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。
- カ 文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。

②主な伸ばしたい資質・能力

- ・順序を表す言葉や写真との照応に気をつけて読む力。
- ・教材文を読んで、相手にとって分かりやすい説明の工夫を見つける力。

③教材等の価値

本教材「しかけカードの作り方」は、初めの部分・〈材料と道具〉・〈作り方〉・〈つかい方〉の構成で書かれている説明的文章である。〈作り方〉では、作業の手順が順を追って示されている。「まず」「つぎに」「それから」「こんどは」「さいごに」という「事柄の順序」を表す言葉を用いて、手順を文章で説明するとともに、それと対応した5枚の写真も掲載されており、文章と写真を結びつけながら作り方の具体的なイメージをもてるようになっている。そのため児童は、実際に材料と道具を用意し、文章の通りにしかけカードを作りながら、楽しんで読み取りに参加することができる。また、書かれていることを順を追って正確に理解することもできる。前述したように、本教材は児童にとって、事柄の順序に着目して文章を読む初めての教材であるが、それに適した教材であると考えられる。

④今後の学習の展開

本単元の次の単元は、「分かりやすくせつめいしよう」である。この単元では、本単元で読み取った手順の説明の仕方をもとにして、今度は児童自身でおもちゃの作り方の説明文を書く学習をしていく。「しかけカードの作り方」で学んだ内容を、書いて確かめていくことで、学習内容の定着を図っていきたい。

また、今後の説明的文章の読解の学習については、まず2学年の「おにごっこ」での学習において、身近な遊びを説明した文章を自分の経験と結びつけて読み、思いや考えを発表する学習をする。文章の読解の際には、接続詞に着目したり、内容のまとまりを確かめながら文章の内容を捉えていく。本単元で学習した順序を表す接続詞や、内容のまとまりについての学習を生かして学習に取り組む。3学年では「コマの使い方」の学習で写真と文章を照応させて読む学習をしたり、「すがたをかえる大豆」の学習で、文章の組み立て方など文章の書き方に注意して読み、説明の工夫について話し合う学習をしたりしていく。

(3) 指導方針

①単元を通して

- これまでの学習を振り返ったり、本時の学習内容を把握したり、今後の学習の見通しをもったりできるようにするた

めに、単元全体の学習の流れがわかるような学習計画を常時掲示しておく。

- 児童が自分の考えをもてるようにするために、個人で考える時間を意識的に確保する。
- 自分の考えを確認したり、広げたり深めたりできるようにするために、ペア・グループ等で交流したり、学級全体で共有したりする場面を設定する。

②第1次

- 単元の課題を把握する場面では、本単元において相手にとって分かりやすい説明の仕方を学ぶことの必要性を感じられるよう、算数の授業での自身の説明の仕方や周囲の反応を振り返る時間を設ける。
- 教材文と出合う場面では、教材文を読もうとする意欲を高めるために、相手に伝わる説明ができるようになるには、教材文のような分かりやすい説明文を読み、そこから説明のコツを学ぶ必要があることに気付くことができるようにする。
- 単元全体の学習の見通しをもつ場面では、児童の学習への意欲を高めるために、この単元の学習を終えると、相手に伝わる説明のコツが分かるようになることを伝える。また、最後まで意欲を継続できるようにするために、見つけた分かりやすい説明の工夫は、『せつめいのコツ ひでんの書』としてまとめていくことも伝える。
- 学習の大体の流れをつかむ場面では、視覚的に確認できるようにするために、学習計画を掲示する。また、本単元での学習内容に対してより意欲的に取り組めるように、次単元では、自分でおもちゃの説明書を書く学習をすることに言及する。

③第2次

- 本時のめあてをつかむ場面では、前時までの学びを想起したり本時の位置づけを確認したりできるように、学習計画表を示しながら本時のめあてを確認する。
- 児童が説明のコツを見つけた際は、説明のコツを見つけた達成感を実感し、さらに見つけていこうという意欲をもてるように、掲示された「せつめいのコツ ひでんの書」に随時コツを記入しまとめていく。また、見つけたコツを進んで使っていこうとする意識をもてるよう、その良さについても考える場面を設定する。
- 本時の振り返りの場面では、新たに学んだことを自覚できるように、ワークシートへわかったことを記入するよう助言する。
- 内容の大体を捉える際は、見出しに着目することができるように、まず、教材文がいくつのまとまりに分けられるかを考える場面を設ける。
- 「見出し」のよさについて考える場面では、クラス全体の考えをまとめ『ひでんの書』に記すことができるよう、個で考えたよさを全体で共有し、児童の言葉を生かしてまとめていくようにする。
- 「順序を表す言葉」のよさについて考える場面では、そのよさを実感できるように、手順が書かれた短冊の順序を考える活動を設ける。
- 「写真と文章を合わせること」のよさについて考える場面では、そのよさに気付くことができるように、指導者が写真がない状態の文章を読み誤った方法で作業する様子を見せるようにする。
- 写真と文章を組み合わせる活動をする際は、文章の内容を読んで根拠を見つけ出して組み合わせを考えることができるよう、理由説明の話型を用意する。
- 実際にしかけカード作りに取り組む場面では、分かりやすく説明するために必要な事柄を意識できるように、何度も読み直したところや、よく確認する必要があるところにサイドラインを引くよう指示する。

③第3次

- 単元全体を振り返る場面では、本単元の学習の前後での自身の変容を自覚できるよう、本単元の学習を通して何ができるようになったかや何を学んだかを振り返り、共有する。
- 本単元で学んだことの有用性を感じられるように、今後の日常生活において、本単元で学んだことが生かせそうな場面を考えさせ、一般化する場面を設ける。
- 本単元で学んだことを実生活で活用していこうとする意欲をもてるように、料理本や手品の本など、手順が書かれた本を数冊実際に示す。
- 次単元「分かりやすくせつめいしよう」において、おもちゃの説明文を書こうとする意欲を高めるために、本単元で作成した「せつめいのコツ ひでんの書」を再度確認し励ますようにする。

(4) 校内研修との関わり ☆自らの力を伸ばそうとする児童を育てる指導の充実 ～学習を「焦点化」「視覚化」「共有化」する工夫を通して～ (焦点化)

- ・1単位時間の授業のねらいをしぼり、そのねらいを達成するための活動を厳選する。

(視覚化)

- ・単元全体の学習の流れがわかるように学習計画を常時掲示しておく。
- ・学習した内容を視覚的に振り返ることができるよう、「せつめいのコツ ひでんの書」を掲示し、分かったことを記入していく。
- ・手順について学習する際、「まず」「つぎに」など接続詞のカードを用い、その有効性を確認できるようにする。

(共有化)

- ・自分の考えを確認したり全体で深めたりしながら、説明の工夫やそのよさを『ひでんの書』にまとめていくために、個の考えをもった上で、グループや学級全体で共有する場を設ける。

3 単元の目標

接続詞や写真等をもとに順序や内容を捉えて文章を読み、相手に伝わる説明の工夫を見つける。

4 評価規準及び指導計画（全6時間）

評価規準	関・意・態	しかけカードの作り方に興味をもち、どのように書かれているかを読み取ろうとしている。相手に伝わる説明の工夫を見つけようとしている。			
	読む能力	順序を表す接続詞や、写真と文の照応をもとに、順序や内容を捉えて文章を読んでいる。文章を読みながらしかけカードを作り、説明の工夫を見つけている。			
	言語についての知識・理解・技能	順序を表す言葉や、その使い方を理解している。			
学習過程	時間	目標（ねらい）	評価の観点		
			関	読	言
第1次	1	自身の説明の経験を想起して、「あいてにつたわるせつ明のコツを見つけ、『せつ明のコツ ひでんの書』をつくろう」という学習課題を設定し、そのために「しかけカードの作り方」を読んでいくという学習の見通しをもつ。	○		
第2次	2	「しかけカードの作り方」の文章全体を、見出しに着目して読み、内容のまとめや内容の大体を捉える。		○	
	3 本時	「しかけカードの作り方」の〈作り方〉の部分について、順序を表す言葉や写真に着目して読み、それらのよさについて考える。		○	○
	4・5	「しかけカードの作り方」を読みながらしかけカードを作り、分かりやすく説明するための工夫を見つける。		○	
第3次	6	手順を相手にわかりやすく説明する方法を振り返り、それがこれからの学習や日常生活でどのように活用できるか考える。	○		

5 本時について（3/6時間）

〈本時の視点〉

接続詞や写真を取り除いた教材文を短冊にして提示し、それらを並べ替えたり写真と合わせたりする活動を設定したことは、相手にとって分かりやすい説明の工夫に気付くために有効であったか。

〈ねらい〉

並べ替えや照応の活動をすることで、順序を表す言葉や写真の有用性に気付きながら読むことができる。

〈主な伸ばしたい資質・能力〉

- ・順序を表す言葉や写真との照応に気をつけて読む力。
- ・順序を表す言葉や写真を使うことのよさについて考えようとする態度。

〈そのために取り入れた手立て〉

①順序を表す言葉に気をつけて読み、そのよさについて考えるための工夫

算数の授業で問題を解く手順を説明する際、「まず」「つぎに」などの順序を表す接続詞を使って説明しようとする児童が少ない。このような児童がその有用性に気づき、進んで使おうとする意欲をもてるよう、接続詞を取り除いた教材文の短冊について、正しい順序を考える場面を設定する。またその後、接続詞を入れた状態で再度並べ替える活動を設定することで、接続詞に着目して順序を捉えられるようにするとともに、接続詞があることによる順序の捉えやすさを実感できるようにする。

②文章と写真との照応に気をつけて読み、そのよさについて考えるための工夫

文章に添えられた写真や絵に目を向けようとする意識が薄く、文章のみから情報を得ようとして、つまずいたりあきらめたりしてしまう児童がいる。このような児童が写真に着目できるよう、作業の手順が書かれた短冊から根拠となる言葉を見つけて、対応する写真を組み合わせる活動を設定し、写真があることによるイメージの

もちやすさを実感できるようにする。

6 展開 (3/6時間)

準備	学習計画表 『せつめいのコツ ひでんの書』 作業の手順が書かれた短冊カード ワークシート 接続詞カード 写真 色画用紙 はさみ	
時間	資質・能力を育成するための学習活動 ○予想される生徒の反応 (意識)	資質・能力を育成するための指導上の留意点
5分	<p><学習課題の把握></p> <p>1 前時の学習を振り返り、本時の学習に思いを致す。</p> <div data-bbox="247 454 834 584" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【学習課題】 相手に伝わる説明のコツを見つけて、「せつめいのコツ ひでんの書」を作ろう。</p> </div> <p>○前の時間は、一つ目の説明のコツ「見出し」を見つけた。 ○見出しがあると、内容のまとまりが分かりやすくなるんだった。 ○今日は〈作り方〉の部分を読んでいくんだな。 ○今日も「ひでんの書」にコツをまとめたいな。</p> <p>2 〈作り方〉の手順が書かれた短冊の正しい順番を考え、本時のめあてを確認する。</p> <p>○どんな順番だったかな、よく分からないな。 ○たしか、こんな順番だった気がする。 ○難しいな。どうしてこんなに順番が分からないのかな。</p> <div data-bbox="247 972 834 1102" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>本時のめあて 〈作り方〉を読んで、分かりやすく作り方をせつめいするコツについて考えよう。</p> </div>	<p>・前時の学習内容を振り返り、本單元における本時の位置づけを捉えるために、</p> <p>・順序を表す接続詞の有用性を後に実感できるように、</p> <p>・長文を読むことに抵抗の強い児童が、並べ替えに取り組みやすくなるように、</p> <p>・本時では何を学習していくのかを明確に捉えられるように、</p> <p>学習計画表を掲示しておき確認する。</p> <p>接続詞を抜いた状態の短冊で、正しい順番を考える場面を設定する。</p> <p>教科書の本文から「すること」について書かれた部分を抜き出した短文を短冊には記載する。〈焦点化〉</p> <p>本時のめあてを提示する。〈焦点化〉</p>
35分	<p><課題の追究></p> <p>1 順序を分かりやすくするためには、どんな言葉が必要か考える。</p> <p>○どんな言葉が必要かな。分からないな。 ○たしか教科書には、「まず」「つぎに」などの言葉が始めについていた。</p> <p>2 順序を表す言葉がついた状態の短冊を再度並べ替える活動を通して、そのよさについて考え、『ひでんの書』にまとめる。</p> <p>○「まず」は最初に使う言葉だから、㊦の短冊が一番最初だな。 ○「つぎに」は、「まず」の後に使うから、㊧の短冊は二番目だな。 ○「さいごに」と書いてあるから、㊨の短冊が一番最後だな。 ○「それから」の短冊と「こんどは」の短冊はどっちが先だろうか。 ○さっきは分からなかったけど、順序を表す言葉を付けたら分かるようになったな。</p> <p>○順序を表す言葉があると、順番がわかりやすいな。 ○順序を表す言葉があると、順序を聞き取りやすいな。</p>	<p>・順序を分かりやすくするには、どのような工夫があるとよいか考えられるように、</p> <p>・順序を表す言葉の有無による違いを意識づけるために、</p> <p>・順序を表す接続詞の使い方を全員が確かめることができるように、</p> <p>・「それから」と「こんどは」の正しい順序を捉えられるように、</p> <p>・児童一人一人が、順序を表す言葉の</p> <p>問いかけて児童の気付きを取り上げる。</p> <p>接続詞は、カードを使用して提示する。〈視覚化〉</p> <p>クラス全体で短冊の順序を確認すると、その順になる理由についても尋ねる。</p> <p>接続詞だけ見れば、どちらが先でもおかしくないことを確認した上で、文章の内容から順序を捉えるよう助言する。 まず個人の考えをワークシートに書いた上で、全体で</p>

<p>○「順序を表す言葉」が今日のコツだ。</p>	<p>よさについて考えをもつことができるように、</p>	<p>共有していく。</p>
<p>3 文章だけでは分かりづらい内容もあることに気づき、文章をさらに分かりやすくするためには何が必要か考える。</p> <p>○先生のやり方は間違っている気がする。 ○文章だけだと、分かりづらいところもあるな。 ○どうしたら、先生は迷わずに作れるのかな。 ○確か、教科書には写真がついていた。 ○折り紙の本にも、写真が載っていたな。</p>	<p>・一つ目の「せつめいのコツ」を見つけた達成感を感じられるように、</p>	<p>児童の言葉を生かして、「ひでんの書」にまとめていく。 〈共有化〉</p>
<p>4 「まず」の短冊に合う写真を選び、理由の説明のしかたを確認する。</p> <p>○「まず」の短冊(㊟の短冊)に合うのは、4番の写真だ。 ○4番の写真は、はさみで切りこみを入れている写真です。だから、「切りこみ」と書いてある㊟の文章と合います。</p>	<p>・文章だけではわかりづらい部分があることに児童が気付けるように、</p>	<p>指導者が、「まず」の短冊を読みながら、実際に間違った方法で作って見せる。 〈視覚化〉</p>
<p>5 5人グループになり、写真と文章の組み合わせを考え、その理由を発表する。</p> <p>○この写真は、紙を折っている写真です。だから、「おります」と書いてある㊤の文章と合います。 ○この写真は、山のように折っている写真です。だから、「山ができます」と書いてある㊦の文章と合います。 ○この写真は、かざりのどんぐりを作っている写真です。だから、「かざりを作ります」と書いてある㊧の文章と合います。 ○この写真は、飾りはりけている写真です。だから、「かざりをはります」と書いてある㊨の文章と合います。</p>	<p>・写真の有用性について実感できるように、</p>	<p>折り紙の本を例に出し、経験を想起できるようにする。</p>
<p>6 写真と文章を組み合わせることのよさについて個人で考えた後、全体で考えを共有し、ひでんの書にまとめる。</p> <p>○写真があった方が、文字だけよりイメージがわく。 ○写真があると、一目で分かる。 ○写真があると、内容が分かりやすくなる。 ○「写真と文章を組み合わせる」ことが、今日の二つ目のコツだ。</p>	<p>・この後、グループで発表する際のモデルとなるように、</p>	<p>理由の説明のしかたの手本を教員が示し、全体で確認する。</p>
<p>4分</p> <p><本時のまとめ> 1 本時のめあての振り返りを書く。</p> <p>○順序を表す言葉があると、順番が分かりやすくなることが分かった。 ○写真と文章を組み合わせると、内容がもっと分かりやすくなるんだな。</p>	<p>・全員が活動に参加し、考えを共有できるように、</p>	<p>各グループ1枚ずつ写真を担当し、文章と写真の組み合わせを考える場を設定する。〈共有化〉</p> <p>理由も発表するよう指示するとともに、そのための話型も提示する。</p>
<p>◇評価 順序を表す言葉に着目して正しく順序を並べかえたり、根拠となる言葉を挙げながら写真を組み合わせたりして読んでいる。 〈観察・発表〉【読むこと・言語】</p>		
<p>4分</p> <p><本時のまとめ> 1 本時のめあての振り返りを書く。</p> <p>○順序を表す言葉があると、順番が分かりやすくなることが分かった。 ○写真と文章を組み合わせると、内容がもっと分かりやすくなるんだな。</p>	<p>・児童が二つ目の「せつめいのコツ」を見つけた達成感を感じられるように、</p>	<p>児童の言葉を生かして、「ひでんの書」にまとめていく。 〈共有化〉</p>
<p>4分</p> <p><本時のまとめ> 1 本時のめあての振り返りを書く。</p> <p>○順序を表す言葉があると、順番が分かりやすくなることが分かった。 ○写真と文章を組み合わせると、内容がもっと分かりやすくなるんだな。</p>	<p>・本時のめあてや学習課題の達成に迫られたことを意識させるために、</p>	<p>『せつめいのコツ ひでんの書』にまとめた2つの説明のコツを再度確認する。</p>
<p>4分</p> <p><本時のまとめ> 1 本時のめあての振り返りを書く。</p> <p>○順序を表す言葉があると、順番が分かりやすくなることが分かった。 ○写真と文章を組み合わせると、内容がもっと分かりやすくなるんだな。</p>	<p>・単元を通して学習に意欲的に取り組んでいけるように、</p>	<p>課題解決に近づいていることを称賛しながら、次時の予告をする。</p>

せつめいのしかたに 気をつけて 読もう

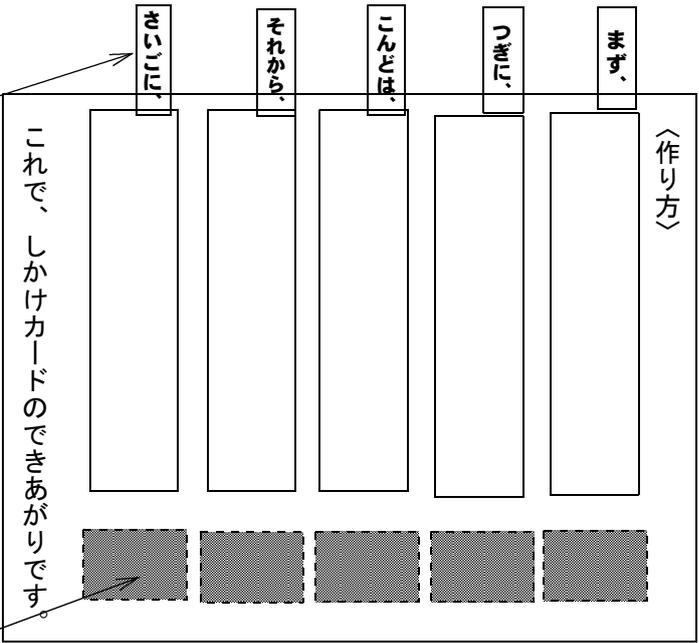
しかけカードの作り方

あいてに つたわる せつめいの コツ を 見つけて、「せつめいの コツ ひでんの書」を作ろう。

⑥

〈作り方〉を読んで、わかりやすく作り方をせつめいする コツについて考えよう。

〈作り方〉



・じゅんじよをあらわすことばがある
・じゅんばんがわかりやすくなる。

しやしんがあると

・イメージがわかりやすくなる。